

令和4年度(第44回)

## 母子保健奨励賞 受賞者の業績



古屋敷智美

青森県・助産師  
(八戸市立市民病院)

地域周産期母子医療センターにて母性看護専門看護師として勤務。助産師外来や院内助産システムの導入・運営に携わるほか、退院後の母子のサポートを目的とした「育児サポート外来」を設置し、授乳や育児に悩む親のニーズに応えた。さらに、ハイリスク妊産婦や特定妊婦に対し、多職種での協議や介入を可能にする体制を整備し、ケアの円滑化を図る。メンタルヘルス支援にも注力し、精神的ケアを必要とする妊産婦に対する重症化予防の支援強化に貢献した。



滝澤福子

岩手県・保健師  
(一戸町役場)

一戸町の療育事業の立ち上げにあたり中心的役割を担う。対象児の個別支援や保育所との課題共有など、発達や就学等に不安を抱える親子の相談窓口として、必要機関と連携を取り支援へとつなげている。また、妊娠期からの愛着形成の重要性に着目し、親の悩みに支援者が早期に気づき寄り添う体制を構築するため、母子健康手帳交付時における「支援が必要な家庭のふり分け項目」の活用を提案。要支援家庭を把握し適切な支援へとつなげるなど、体制強化に尽力した。



長畑裕恵

神奈川県・助産師  
(あゆみ助産院)

助産師として新生児訪問や両親学級、母子相談、女性の健康相談などに携わる。そのなかで悩みの根底に自己肯定感の低さがあると感じ、機会を得て命の大切さを伝える出前講座を小・中学校にて実施。自己肯定感の向上につなげる思春期教育に積極的に取り組む。平成30年から神奈川県助産師会「いのちのはなし」事業部に所属し、正しい性の知識や性の多様性、命の素晴らしさについて子どもたちを中心に幅広い世代に向けて伝え続けている。



岩田ゆき

福井県・保健師  
(越前市役所)

親が自信を持って育児できる環境整備を目指す。とくに親子の孤立防止に注力し、生後2か月ごろに親子で参加するセミナーをスタートさせ、親同士の交流を図った。また、地域ボランティア団体と協力して身体を動かすことの大切さを普及する「歩育事業」などに取り組んだほか、児童館での出前育児相談など、親子と地域を結びつける事業を実践。親子と地域住民とが互いに通じ合い、その地域に生まれ育つ喜びを感じられる活動を推進している。



白木京子

岐阜県・助産師  
(訪問看護ステーション  
すずらん・すずらん助産院)

一貫して産後うつ防止活動に取り組む。自らの育児経験から親の孤立の現状に注目し、保育士資格を活かし子育てサークルを立ち上げる。その後助産師資格を得て臨床と教育の現場で研鑽を積み、県や市町村の母子保健支援に従事する。新型コロナウイルス感染症流行下においても妊産婦への訪問支援を実施。オンラインによるパパママクラスの開催は、孤立しがちな親の情報交換の場になった。現在、開業した訪問看護ステーションと助産院で継続的な妊産婦の支援を行う。



岡本弥生

愛知県・保健師  
(小牧市役所)

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うため、子育て世代包括支援センターの設置に尽力した。さらに、児童館の利用のタイミングがわからず行きづらいという親の声を聞き、同館にて1歳の誕生日に絵本を贈る「1stアニバーサリー事業」を企画。令和3年度は、全1歳児の8割超の参加があり、うち4割が初めての児童館利用、また22%が継続支援、8.8%が他機関と連携した支援につながった。児童館が親子の身近な存在になるなど、孤立解消にも貢献した。



カーティエ倫子

京都府・助産師  
(カーティエ助産院)

母子訪問支援員として新生児訪問を行うなか、乳児の発達支援と母親の孤立防止の必要性を痛感し、訪問支援やベビーマッサージ教室の運営を通して乳児の発達促進や、育児についての正しい知識の普及に取り組む。教室は仲間を作り共感を得るという母親の精神的サポートの場としても機能し、産後間もない母親の育児不安の解消や体調不良の早期発見につながっている。助産院も開業し、母子が集い気軽に相談しあえる場を提供。地域の継続的な母子支援に貢献した。



### 島崎明代

兵庫県・助産師  
(しまざき助産院)

満足感や達成感を感じるお産は母親の子育てへの自信につながると考え、母親主体の自然なお産に寄り添う助産院を開業。妊娠中の体調管理や、家族で赤ちゃんを迎える準備などきめ細やかなケアを行う。平成30年の川西市の産後ケア事業開始と同時に、産後ケア施設を開設。産後うつの母親や育児の不安を抱える母親のサポートに尽力した。また、関係団体と協力し、病院で出産する女性も妊娠中から地域の助産師による継続ケアを受けられるシステム作りに尽力している。



### 大底みどり

沖縄県・助産師  
(おおそこ助産院)

分娩施設が県立八重山病院に限られていた八重山地域の妊産婦を手助けしたいと、同病院と同じ石垣島に助産院を開業。同病院と連携を取り、妊娠・出産・育児の支援に取り組む。妊娠36週から出産に向け石垣島に渡ってくる離島在住の妊婦の精神的・経済的負担を軽減するため、助産院の2階を長期滞在施設として提供。周辺離島の自治体にも出向いて妊産婦相談や産後ケア、育児相談に取り組むなど地域の安心・安全な出産等、母子保健の向上に貢献した。



### 三宅彩香

愛媛県・助産師  
(あやか助産院)

助産師の専門性と多胎育児経験を活かし、多胎サークルでピアサポーターを担うほか、育児相談や身近な育児情報に関する講話を行うなど、地域の母子支援に多数携わる。令和2年には、産後ケアを柱とした助産院を開業。子どもの健やかな成長には母親が十分なサポートを得られることが大事であると考え、産後の心身ケアや育児サポートに注力する。母乳外来では年間のべ約200件に対応。産後ケアをより身近で当たり前にするための環境づくりに尽力している。



### 池尻由美

長野市・助産師  
(合同会社 Mom's sun)

総合病院等で助産師として勤務後、妊娠・出産から育児まで地域の母親を切れ目なくサポートする会社を設立。親子が誰でも集える場所を目指し、母親向けイベントや支援サービスを実施した。また子どもと常に一緒にいることで子育てに不安や困難を覚える親も少なくないことから、働く親に限らず誰もが利用できる認可外保育園を開園し、病児保育事業も行う。令和3年には長野市認可小規模保育園となり、一時保育室や支援センターも併設。地域の母子支援の拡充に貢献した。



### 木附和歌子

福岡県・助産師  
(きつき助産院)

八女市の新生児妊産婦訪問や産後ケア事業を受託し、産後うつ・虐待防止支援に取り組んでいる。また、久留米市の思春期保健教育活動に立ち上げから携わり、小学校で性教育を実施。児童からの質問にも、ともに考えて答えを導き出す「一人ひとりが参加して考える性教育」を目指し、自分も他者も大切にすることを育てることに尽力する。令和元年からは、児童心理治療施設にて生活指導員として社会的擁護が必要な子どもたちにかかわり、命の大切さについて伝えている。



### 山下典子

高槻市・保健師  
(高槻市役所)

「にんしんSOS相談事業」に携わった経験から、予期せぬ妊娠や未受診妊婦の安全なお産を目指し、市内10か所の産科医療機関に赴き協力を求め、連絡窓口の設置を実現。児童福祉機関へも働きかけ、医療・福祉との連携を構築することで、安全な出産や円滑な継続支援の仕組みづくりに貢献した。また、市の子育て世代包括支援センターの立ち上げにも尽力。「すべての妊婦を対象にした相談支援」を目指し、各関係機関と協働して子育て世代に寄り添う支援を推進している。



### 前田隆嗣

鹿児島県・医師  
(鹿児島市立病院)

学生時代に超低出生体重児が治療を受ける新生児集中治療室を目の当たりにし、周産期医療の担い手を志す。ドクターヘリを用いた母体搬送や緊急時の医師派遣等、地域施設の支援に取り組み、多くの母子の予後改善に寄与した。また、胎児胸腔・羊水腔シャント術等の胎児治療で中心的な役割を担う。平成26年には双胎間輸血症候群の治療技術を習得し、手術を開始。7年間で同症候群のほぼ全例の36例で手術を担当する等、胎児治療に尽力した。



### 河村奈央子

久留米市・助産師  
(久留米大学病院)

市の思春期保健出前講座に立ち上げから携わる。子どもの発達段階や理解度に応じた内容となるよう、担当保健師と意見交換を重ね、市の教育プログラムに沿った学年別の教材を作成。性を、自分も相手も大切にすることとして捉え命の尊さを感じてもらおうとともに、予期しない妊娠や性感染症の減少につながるよう工夫を凝らす。将来、親になるだろう子どもたちに向けて思春期教育を行うことが、ひいては母子保健の向上につながると考え、精力的に活動する。